

【田辺市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(令和3年1月)が示すよう、授業観のアップデートが求められています。

本市では、1人1台端末とクラウド環境をフルに活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びにつながる授業や探求的な学びが日常的に行われる姿を目指します。

2. GIGA第1期の総括

本市では、令和2年度に1人1台端末の整備と構内通信ネットワークの整備を完了しましたが、校外のネットワークに課題があり、ボトルネックが発生しました。

ボトルネックの解消に向け、令和3年度に市内17校でローカルブレイクアウトを実施し、ネットワークの安定を図りました。また、教員のICT活用指導力を高めるため、ICT支援員の派遣や各校のICT教育担当者を中心とした研修や研究授業を始めました。

翌令和4年度には、授業支援システムとAIDリルを導入し、利用率が一段と高まりました。

加えて令和4年度より、本市教育委員会の指定研究としてICTの効果的な活用に係る研究、令和5年度よりリーディングDXスクール事業に参加し、地域のモデルとなる学校作りを進めてきました。

しかし、取組を進める中で、学校間及び教職員間で使用率やICT活用指導力の差が大きくなっています。また、1人1台端末の活用場面も、これまで取り組まれてきた授業に組み込んだ活用が多く、授業観がアップデートされたうえでの活用に課題が残っています。

3. 1人1台端末の利活用方策

学校間及び教職員間での使用率やICT活用指導力の差を埋めるため、引き続き、本市教育委員会の指定研究等を通じて、各校の参考となる事例を多く創出するとともに、教育委員会が実施する研修や研修動画を充実させ、全ての教職員が活用する環境を作ります。

また、授業観をアップデートしたうえでの1人1台端末の活用推進に向けて、指導主事が各校の取組に伴走支援をしながら、各校の実態に沿った取組の充実に努めます。

これら取組を通じて、全ての小中学校で主体的・対話的で深い学びにつながる授業や探求的な学びが日常的に行われるように進めます。